

# 授業アイデア例

「授業アイデア例」は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして、国立教育政策研究所において作成したものです。

本調査で見られた課題は、調査の対象学年だけでなく、学校全体で組織的・継続的な取組によって改善を図っていくことが大切です。

「授業アイデア例」が、日々の授業や研修会など様々な場面で活用され、児童生徒の学習状況の改善につながることを期待しています。



## 目次

	授業アイデア例の見方 .....	P.1
国 語	「動画を用いて話し合いの中の自分の発言を振り返る」 .....	P.3
	～話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる～	
	「読み手の立場に立って、文章を整えよう」 .....	P.5
	～表現の効果などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする～	
数 学	「叙述を根拠に自分の考えをもつ」 .....	P.7
	～「吾輩は猫である」を読む～	
	「四角で囲んだ4つの数の和の性質を見付けよう」 .....	P.9
	～説明を振り返り、統合的・発展的に考察する～	
	「2分をはかる砂時計を作るために必要な砂の重さを予想しよう」 .....	P.11
	～2つの数量の関係を比例とみなして数学的に考察する～	
	「三角定規を重ねると、どんな四角形ができるか考えよう」 .....	P.13
	～図形を動的に観察することを通して、見いだした事柄を数学的に表現する～	

# 授業アイデア例の見方

教科名、本授業アイデア例のタイプ、調査問題の問題番号を示しています。

タイトルではどのような活動を行うのかを、サブタイトルではどのような力を身に付けたいのかなどを示しています。

調査結果から見られた課題についての解説や本授業アイデア例の作成意図、指導のねらい等を記述しています。



## ポイントについて

本授業アイデア例において、特に注目・留意すべき指導上のポイントを記述しています。

## 数学

TYPE  
L

6 (3)

### 授業アイデア例

## 「四角で囲んだ4つの数の和の性質を見付けよう」

～説明を振り返り、統合的・発展的に考察する～

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察することが大切です。そこで、本授業アイデア例では、自然数を5つずつに区切った表で囲んだ4つの数の和について成り立つ事柄から、自然数を6つずつに区切った表で囲んだ4つの数の和についても成り立つ事柄を見だし、事柄を捉え直すことで統合的・発展的に考察することができるようにする指導事例を紹介します。

前の時間では、「自然数を5つずつに区切った表において、四角で囲んだ4つの数の和がいつでも4の倍数になること」を文字式を使って説明しました。自然数を6つずつに区切った表に変えても、四角で囲んだ4つの数の和は4の倍数になりますか。

### 1. 6つずつに区切った表において、4つの数を囲むとき、4つの数の和がどんな数になるか調べる。



今回は、自然数を6つずつに区切った表で考えてみましょう。6つずつに区切った表でも、四角で囲んだ4つの数の和は4の倍数になるといいですか。



1, 2, 7, 8を囲むと和は18で、4の倍数ではないね。

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

4の倍数ではないけれど、偶数になっているよ。



17, 18, 23, 24を囲むと和は82で、4の倍数ではないね。

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

偶数ということは2の倍数だね。4つの数の和はいつでも2の倍数になるのかな。



6つずつに区切った表では、四角で囲んだ4つの数の和は4の倍数にならないことがわかりましたね。さらに、「四角で囲んだ4つの数の和はいつでも2の倍数になる」という予想を立てました。この予想が成り立つかどうか確かめましょう。

$n$  を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を  $n$  とすると、右上の数は  $n+1$ 、左下の数は  $n+6$ 、右下の数は  $n+7$  と表される。これら4つの数の和は、  
 $n + (n+1) + (n+6) + (n+7)$   
 $= 4n + 14$   
 $= 2(2n+7)$   
 $n$  は自然数で、 $2n+7$  は自然数となり整数でもある。 $2n+7$  は整数なので、 $2(2n+7)$  は2の倍数である。したがって、6つずつに区切った表を用いて4つの数を囲むとき、4つの数の和は2の倍数になる。

$2 \times (\text{整数})$  の形になるように  $4n+14$  を  $2(2n+7)$  と変形したんだね。

$2n+7$  は整数だね。だから、 $2(2n+7)$  は  $2 \times (\text{整数})$  の形になっているとみていいね。

2の倍数になることがいえだね。予想したことは成り立つことがわかりました。

### 2. 一旦解決された問題を振り返り、さらにわかることはないか考える。



四角で囲んだ4つの数の和  $2(2n+7)$  から、2の倍数の他にわかることはありませんか。



$2n+7$  の2倍かな。



6つずつに区切った表でみたときに  $2n+7$  は何を表しているといえますか。

$n + (n+1) + (n+6) + (n+7) = 2(2n+7)$					
1	2	17	18	$n$	$n+1$
7	8	23	24	$n+6$	$n+7$
$2 \times 9$		$2 \times 41$		$2(2n+7)$	

## 授業アイデア例のよりよい活用に向けて

授業アイデア例をよりよく活用するためには、児童生徒の解答状況を把握することが大切です。

児童生徒の実態を把握する際には、設定する条件等に即して解答を分類、整理した報告書掲載の解答類型を参考にしてください。

## 課題の解決に向けた観点として、

### ピンポイントで

TYPE  
S

学習過程の一部に焦点を当てて、学習指導の改善・充実を図る事例

中学校  
国語

P.7 「叙述を根拠に自分の考えをもつ」

中学校  
数学

P.11 「2分をはかる砂時計を作るために必要な砂の重さを予想しよう」

課題の見られた問題の概要と結果

6 構想を立てて説明し、発展的に考察すること (4つの数の和)

6(3) 正答率 30.9%

四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する。

学習指導要領における領域・内容

(第2学年)  
A 数と式 (1)イイ

9は1と8の和になっていて、41は17と24の和になっているね。

9は2と7の和、41は18と23の和にもなっているよ。

みんなの言っていることをまとめると、左上の数と右下の数の和になり、右上の数と左下の数の和にもなっているといえます。

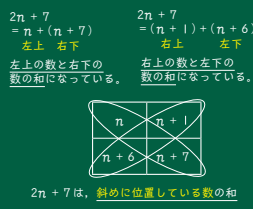
2n+7でもそのようになっていくのかな。

2n+7は左上の数と右下の数の和になっています。また、右上の数と左下の数の和にもなっているといえます。

2n+7についてわかったことをまとめると、どのようなことがいえますか。

2n+7は斜めに位置している2つの数の和になるといえます。

つまり、四角で囲んだ4つの数の和2(2n+7)は、斜めの数の和の2倍になるともみることができますね。



3. 5つずつに区切った表の場合の説明を振り返り、統合的・発展的に考察する。

4つの数の和は、斜めの数の和の2倍であることがわかりましたね。このことは、5つずつに区切った表でもいえるでしょうか。

5つずつに区切った表の4つの数の和を4n+12と表したよ。

4n+12は2(2n+6)と変形できるね。何かの2倍になっていることはわかるよ。

2n+6は斜めに位置している2つの数の和とみることができますか。

できます。左上のnと右下のn+6の和も、右上のn+1と左下のn+5の和も2n+6になるからです。

5つずつに区切った表でも、4つの数の和は、斜めに位置している2つの数の和の2倍になるといえます。

6つずつに区切った場合でも5つずつに区切った場合でも4つの数の和は斜めに位置している2つの数の和の2倍になります。

表の区切り方を変えても同じことがいえただね。

本授業アイデア例 活用のポイント!

- 一旦解決された問題を振り返り、さらにわかることはないかについて考え、得られた数学的な結果について事象に即して解釈することが大切である。
- 条件を変えて考察しそれを振り返ることで、共通の性質を見いだしたり、拡張して考えたりするなど、統合的・発展的に考察することが大切である。

参考 「令和3年度 報告書 中学校 数学」P.36～P.42、「令和3年度 解説資料 中学校 数学」P.24～P.33

調査問題の概要、正答率を示しています。

指導のねらいに関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

本授業アイデア例 活用のポイント!

本授業アイデア例を活用するに当たって、授業づくりの参考となるよう、他の学年・各教科等での指導に生かすことなど、参考となる情報や指導上の留意点等を記述しています。

参照

国立教育政策研究所で作成しているほかの資料の関連部分を示しています。

次の2つのタイプを設けています。////

プロセスの中で

TYPE  
L

数時間にわたる学習過程の中で、  
学習指導の改善・充実を図る事例

中学校  
国語

- P.3 「動画を用いて話合いの中の自分の発言を振り返る」
- P.5 「読み手の立場に立って、文章を整えよう」
- P.7 「叙述を根拠に自分の考えをもつ」

中学校  
数学

- P.9 「四角で囲んだ4つの数の和の性質を見付けよう」
- P.13 「三角定規を重ねると、どんな四角形ができるか考えよう」

# 「動画を用いて話し合いの中の自分の発言を振り返る」

～話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる～

話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考える際に、適切な発言について考えることに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、話し合いの様子を動画で記録し、それを用いて話し合いを分析する学習を提案します。ICTを活用して話し合いの様子を個人で振り返ったり、振り返った内容をグループで共有したりすることを通して、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる力を身に付けることをねらいとします。

## 課題の見られた問題の概要と結果

### 学習指導要領における内容

### ① 話し合いをする（地域清掃活動）

〔第1学年〕

①三 正答率 **57.5%** 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。

思考力、判断力、表現力等  
A 話すこと・聞くこと オ

### 授業アイデア例

#### 学習の流れ

学習の見直しをもつ。  
一つの議題についてグループで話し合い、その様子を動画で記録する。  
動画を基に、各自で自分の発言を振り返る。  
(第1時)

前時で振り返った内容について、グループで交流する。  
グループで交流した内容を学級全体で共有する。  
(第2時)  
※ 各教科等での話し合う活動に生かす。

各教科等での話し合う活動の際に、第2時までに学習した内容を生かすことができたかどうかについて、各自で振り返り、学級全体で共有する。  
(第3時)  
※ 今後の話し合う活動に更に生かす。

(言語活動) 動画を用いて各自で話し合いを振り返り、よい点や改善点を次の話し合いに生かす。

### 授業前の教師の準備

①三についての生徒の解答の状況を「解答類型」(令和3年度 報告書 中学校 国語)に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

- 「解答類型3」の生徒  
話し合いの話題や方向を捉えた発言について指摘することはできているが、そのような発言をする理由を具体的に示すことができていない。
- 「解答類型4」の生徒  
話し合いの話題や方向を捉え、どのような発言をすればよいのかを示すことができていない。

### 第1時

#### ① 学習の見直しをもつ。



教師

一つの議題についてグループで話し合う様子を動画で記録し、その動画を基にして自分の話し合いの様子やよい点や改善点について振り返ったり、振り返った内容をグループで交流したりします。また、各教科等での話し合う活動に生かすことができたかどうかについて確かめます。

#### ② 議題についてグループで話し合い、その様子を動画で記録する。

※ 話し合いの時間は、10～15分間程度を目安とする。

### 議題の例

- 学級のスローガン
- 学校図書館の利活用促進のための方法  
など、一定の合意を形成して物事を決める必要のあるもの。

### ICTを活用した記録の仕方の例

- グループの全員の姿が収まるように撮影する。その際、補助マイクを設置するなどして、全員の音声が入るように工夫する。
- 自分の姿が収まるように、各自で撮影する。

など



#### ③ ②で記録した動画を各自で振り返り、自分の発言について気付いたことをノートに書く。

### 話し合いを振り返る際の観点の例

- ① 話し合いの話題や展開を捉えた発言をしていたか。
- ② ①について、なぜそのような発言をしたのか。
- ③ よりよい話し合いにするために、どの場面でどのような発言をすることが考えられたか。
- ④ ③について、なぜそのような発言をするとよかったのか。

など



## 第1時終了後の教師の分析

- 第1時終了後に、ノートの記事内容を分析する。  
授業前に把握した「解答類型3」、「解答類型4」に該当する生徒が、次の観点についてできているかどうかを見る。
- 話し合いの話題や展開を捉えた発言や、そのような発言をした理由について具体的に述べている。
  - よりよい話し合いにするための発言や、そのような発言が望まれた理由について具体的に述べている。
- 第1時終了後に不十分だった生徒については、第2時、第3時の学習の様子を観察し、必要に応じて指導する。

## 第2時

- 4 3で書いた内容について、グループで交流する。必要に応じて、2で記録した動画を確認する。  
[交流している場面の例] ※ ここでは、「学級のスローガン」について話し合った動画を振り返っている場面を示す。



今回の話し合いでは、グループ全員が納得する「学級のスローガン」の案を一つに決めることができませんでした。最初は、私も含めてみんなが、それぞれよいと考える案とそのように考えた理由について述べていたのですが、全員が一回ずつ発言した後は、発言する人がほとんどいなくなっていました。同じような意見がいくつか出ていたので、それぞれの意見の共通点や相違点を指摘する発言をすればよかったと思いました。

私が考えた案と、Aさんの案には共通する部分があったので、Aさんの発言の後に、その部分に触れる発言をすれば、話し合いがまとまる方向へ進んだのではないかと、動画を見て感じました。



最初にAさんが、「発言する際には、理由も必ず述べてください」と注意してくれたので、私も「学級のスローガン」の案だけでなく、その理由も述べることに留意しました。話し合いを深めるために、私は、他の人の意見や理由について、いろいろと質問をすればよかったと反省しました。

私も、自分の考えを述べるのに精一杯で、みんなの発言を結び付けて考えることができていませんでした。今後話し合う際には、「互いの発言の共通点や相違点を整理する」、「互いの発言について気になるところを質問し合う」ことなどを心がけたいと思います。

- 5 4で交流した内容を学級全体で共有し、各教科等での話し合う活動に生かす。

## 第3時

※ 第2時と第3時の間に一定の期間を置き、総合的な学習の時間や特別活動など、各教科等での話し合う活動と関連させるなどの工夫をする。その際、話し合いの様子を動画で記録しておくことも考えられる。

- 6 各教科等での話し合う活動の際に、第2時まで学習した内容を生かすことができたかどうかについて、各自で振り返り、学級全体で共有する。



今回学習したことを、今後の各教科等での話し合う活動に更に生かしていきましょう。



## 本授業アイデア例 活用のポイント!

- 下記の教科書等と関連させて指導することも考えられる。 ※ 発行者は、五十音順に掲載。

学年	教育出版 『伝え合う言葉 中学国語』	三省堂 『現代の国語』	東京書籍 『新しい国語』	光村図書出版 『国語』
1	発言を結びつけて話し合う (P.223)	話題や展開にそって話し合いを つなげる (P.30)	話し合いで理解を深めよう (P.193)	話題や展開を捉えて話し合おう (P.146)
2	よりよい結論を導く討論をする (P.233)	互いの考えを尊重しながら話し 合いを深める (P.34)	話し合いで問題を検討しよう (P.193)	立場を尊重して話し合おう (P.140)
3	意見を共有しながら話し合う (P.235)	合意形成に向けて話し合いを計 画的に進める (P.34)	話し合いで意見をまとめよう (P.197)	合意形成に向けて話し合おう (P.136)

- 以下の授業アイデア例と関連させて指導することも考えられる。
- ・「平成24年度【中学校】授業アイデア例」P.3～P.4「対談を読んで考えたことを基に座談会を行う。」
  - ・「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P.7「話し合いの動画を見ながら、司会の役割を話し合う」
  - ・「平成26年度【中学校】授業アイデア例」P.7「互いの発言を整理しながら、話し合おう」
  - ・「平成28年度【中学校】授業アイデア例」P.4「動画を用いて話し合いを振り返る」
  - ・「平成31年度（令和元年度）【中学校】授業アイデア例」P.5～P.6「『話し合いのデザインシート』を用いて話し合おう」

# 「読み手の立場に立って、文章を整えよう」

～表現の効果などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする～

推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、自分の伝えたいことが分かりやすく伝わるように、読み手の立場に立って文章を整える学習を提案します。教師が提示する意見文を読んで、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などについてよい点や改善点を考えることに加え、そこでの学習を踏まえて自分が書いた文章を捉え直すことを通して、読みやすく分かりやすい文章を書く力を身に付けることをねらいとします。

## 課題の見られた問題の概要と結果

学習指導要領における内容

### ② 意見文を書く（言葉の使い方）

〔第2学年〕

②-1 正答率 **25.1%**

意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。

思考力、判断力、表現力等  
B 書くこと E

## 授業アイデア例

### 学習の流れ

学習の見直しをもつ。  
教師が提示した意見文を読み、よい点や改善点について気付いたことを、各自でノートに書く。  
書いた内容について、グループで交流する。  
(第1時)

前時で交流したことを踏まえて、各自で意見文を書く。  
書いた意見文について、書く際に工夫した点を、各自でノートにまとめる。  
(第2、3時)

各自で意見文を推敲する。  
学習を振り返る。  
(第4時)

(言語活動) 読み手の立場に立って、文章を整える。

## 授業前の教師の準備

②-1についての生徒の解答の状況を「解答類型」（令和3年度 報告書 中学校 国語）に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

### ● 「解答類型2」、「解答類型3」、「解答類型99」の生徒

推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題がある。意見や根拠、具体例といった言葉と、文章の記述とを結び付けて捉えることができていない。

### 第1時

#### 1 学習の見直しをもつ。



教師

〔環境問題〕をテーマに各自で意見文を書き、読み手の立場に立って、文章を整える学習をします。まずは、これから提示する意見文を読み、よい点や改善点について考えてみましょう。

### 意見文のテーマの例

- 環境問題
- SNSの活用
- 働くことの意義

など

#### 2 教師が提示した意見文を読み、よい点や改善点について気付いたことを、各自でノートに書く。

※ 必要に応じて、令和3年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語②-1を振り返ったり、本授業アイデア例P.6にある「推敲する際の観点の例」を事前に示したりすることも考えられる。



気付いたことを書く際には、印象や感想だけでなく、文章のどの部分のことなのかが分かるようにしましょう。また、書き手の意図や、読み手に与える効果についても考えましょう。

- ① 私たちは日々の生活の中で、多くのプラスチック製品を利用している。私は、その全てが本当に必要なものか、また、使い方を工夫することができないかについて、今一度立ち止まって考えてみるべきだと思う。プラスチック製品は現在、地球の自然環境に大きな影響を与えている。
- ② 先日、テレビの報道番組で「海洋プラスチックごみ」が深刻な環境問題となっていることを報じていた。「海洋プラスチックごみ」とは、不適正な処理によって海洋に流出する廃プラスチック類のことだ。このまま放置しておくと、大変なことになると予想されている。
- ③ 確かに、プラスチックは軽く、加工しやすいなどの利点がある。しかし、自然環境ではほとんど分解されずに、地球上に残り続けることになるといふ報告がなされている。
- ④ これからの私たちにあって大切なことは、むやみにプラスチック製品の使用を制限してしまうのではなく、プラスチック製品を安易に使い捨てにしている場面はないか、また、ごみの処理の仕方に問題はないかなどについて考え、改善できることから取り組んでいくことだ。現在は、買い物をする際には必ずエコバックを利用したり、商品に示されているプラスチック製容器包装のマークを丁寧に見て、ごみの分別をしたりするようにしている。

〔教師が提示する意見文の例〕

〔1から4は、段落の番号。〕

### 3 2で書いた内容について、グループで交流する。



第①段落の最後の文に「からだ」を付けて、「プラスチック製品は現在、地球の自然環境に大きな影響を与えつつあるからだ。」とした方がよいと思います。そうすることで、直前の文で述べている「私は、その全てが本当に必要なものか、また、使い方を工夫することができないかについて、今一度立ち止まって考えてみるべきだと思う。」という意見の根拠であることがより明確になります。

第②段落には、第①段落で述べている意見の根拠となる具体例が書かれていますが、最後の「大変なことになる」という部分に分かりづらいと感じました。読み手にとっては、どう大変なことになるのかが書いてあった方が、書き手の意見に納得しやすいと思います。



書き手は、第③段落で「確かに、」という書き出しで、プラスチックのよい点について述べていますが、こうすることで、第④段落の最初の文で述べている意見により説得力が出ていると思います。

第④段落には、書き手自身が取り組んでいることが書かれていて、「改善できるところから取り組んでいくこと」が大切という意見に共感できました。私も、プラスチック製容器包装のマークやその他のマークに気を付けて、ごみを分別するところから始めたいと思います。



#### 第2時、第3時

- 3で交流したことを踏まえて、「環境問題」をテーマに、各自で400～800字の意見文を書く。
- 4で書いた意見文について、書く際に工夫した点を、各自でノートにまとめる。

#### 第3時終了後の教師の分析

第3時終了後に、ノートの記述内容を分析する。  
授業前に把握した「解答類型2」、「解答類型3」や「解答類型99」に該当する生徒が、次の観点についてできているかどうかを見る。

- 表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などについて、どのような工夫をしたのかを具体的に書いている。

第3時終了後に不十分だった生徒については、第4時の推敲の様子を観察し、必要に応じて指導する。

#### 第4時

- 各自で意見文を推敲する。

#### 推敲する際の観点の例

- 1 表記や語句の用法について  
文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分け、語句の選び方や使い方が適切かなど。
- 2 叙述の仕方について  
文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順が適切かなど。
- 3 表現の効果について  
説明や具体例、描写などの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているかなど。  
※ 指導に当たっては、例えば、第1学年では①、②、第2学年では、①～③、第3学年では、①～③に加えて「B書くこと」の他の指導事項に示された内容に着目して、目的や意図に応じた表現に整えることが考えられる。



- 学習を振り返る。

#### 本單元における ICT 活用の例

例えば、ICTを以下の場面で活用することも考えられる。

- 教師が提示した意見文を用いて交流する場面。
  - 各自で意見文を書いて、推敲する場面。
- また、ICTを活用した「B書くこと」の学習については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の第3編事例2も参考になる。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」  
P.50～P.57 参照



[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_mid\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_kokugo.pdf)



#### 本授業アイデア例

#### 活用のポイント！

- 以下の授業アイデア例と関連させて指導することも考えられる。
  - ・「平成28年度【中学校】授業アイデア例」P.3「要望する文章を書こう」
  - ・「平成28年度【中学校】授業アイデア例」P.5～P.6「系の活動への協力を呼びかけるちらしを作る」
  - ・「平成31年度（令和元年度）【中学校】授業アイデア例」P.7～P.8「読み手を意識しながら、意見文を書く」
  - ・「令和2年度【中学校】活用の参考資料」P.22～P.29「自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書くことができるようにする。」

# 「叙述を根拠に自分の考えをもつ」

## ～「吾輩は猫である」を読む～

文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつ際に、文章の内容を捉えた上で、自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にすることに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、夏目漱石の「吾輩は猫である」を読んで、具体的な叙述を根拠に自分の考えをもつ学習を提案します。調査で見られた課題となる解答例を取り上げて、書かれている考えの根拠となる叙述について検討したり、別の場面を読んで自分の考えを書き、書いた内容を他の人と交流したりすることを通して、叙述と結び付けて自分の考えをもつ力を身に付けることをねらいとします。

### 課題の見られた問題の概要と結果

#### 学習指導要領における内容

#### ③ 文学的な文章を読む（「吾輩は猫である」）

〔第1学年〕  
思考力、判断力、表現力等  
C 読むこと オ

③四 正答率 **20.8%** 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。

●TYPE Sで授業を行う際は、「第1時」の学習の流れを参考にするとよい。

#### 授業アイデア例

##### 教材例

- 「吾輩は猫である」（令和3年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語③）（TYPE S・Lの場合に使用）
- 教科書に掲載されている文学的な文章など（TYPE Lの場合に使用）

##### 第1時

#### 1 学習の見通しをもつ。



教師

「吾輩は猫である」は長く読み継がれている作品です。今回はこの作品を読み、叙述を根拠に自分の考えをもつ学習をします。まずは、この作品が、読んだ人たちにどのように受け止められているのかを見てみましょう。

#### 2 「吾輩は猫である」について、インターネット上にあるレビューを読み、作品がどのように受け止められているのかを知る。

##### 〔インターネット上のレビューの例〕

猫の視点から見た人間の姿を皮肉を交えながら、どこか滑稽に描いている作品。

時には批判的に、時にはユーモアを交えて話が進んでいるところが面白かった。

当時の社会やそれに影響を受ける人間たちを猫の視点で眺めた作品で、今読んでも共感できる点が多い。



たくさんのレビューがあり、現代でも多くの人に読まれていることが分かりました。私も作品全体を読みたいと思いました。

「滑稽」や「ユーモア」というコメントがありますが、作品の中のどの場面や描写からそう感じたのでしょうか。



#### 3 令和3年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語③の【文章の一部】を読み、次の解答例について、根拠として考えられる叙述を各自でノートに書く。

##### 〔課題が見られた解答例〕 ※ ここでは、解答類型4の典型的な解答例を示す。

「吾輩」は「黒」を少し見下して接している。このような接し方は相手に失礼だと思う。



教師

皆さんの解答の中には、どこからそう感じたのかが分かりにくいものがありました。文章を読んで考えをもつ際には、具体的な叙述に基づいて考えることで、自分の考えが整理されたりより確かなものになったりします。例えば、この解答には「少し見下して接している」とありますが、どの叙述が根拠になると思いますか。

#### 4 ③で書いたことをグループで交流する。



「元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあつて」という叙述から、「吾輩」が「黒」を見下していると考えられます。

私もそう思いました。他にも、「『へえ、なるほど』と、あいづちをうつ。」や「無学の黒」などという表現も「見下して接している」と考える根拠になるのではないのでしょうか。



「無学の黒」という部分は、確かにそうですね。しかし、「『へえ、なるほど』と、あいづちをうつ。」という「吾輩」の行動が、なぜ「黒」を見下していることになるのでしょうか。むしろ、「吾輩」は「黒」に共感していると受け止めるべきではないのでしょうか。



その部分だけを見ると共感しているとも言えますが、「『うまくやったね』と喝采してやる。」など、「吾輩」と「黒」の一連の会話と結び付けて考えると、「見下して接している」と解釈することもできます。



「吾輩」が「黒」を見下していることが分かる叙述は、一箇所だけとは限らないですね。また、一つの叙述だけでなく、複数の叙述を結び付けて考えることも大切なですね。



## 第2時～第4時

5 第1時に読んだレビューを基にして「吾輩は猫である」の別の場面を各自で選んで読み、4の学習を踏まえて自分の考えをノートに書く。

※ ここでは、「吾輩は猫である」の最初の場面を取り上げた学習例を示している。生徒の実態に応じて、教師側で取り上げる場面を決めたり、文章の長さを工夫したりすることも考えられる。

別の場面を読む際にも、具体的な叙述に基づいて自分の考えをもつことが大切です。その上で、互いの考えを交流することで、作品の受け止め方がより豊かなものになります。



6 5で書いた内容をグループで交流し、互いにコメントを書く。

### 交流する際の観点の例



- 取り上げた叙述について、どのように理解したかが書かれているか。
- 具体的な叙述を基にした考えが書かれているか。
- 自分自身の考えと共通している点や異なっている点はどこか。

など

### 〔最初の場面〕

吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生まれたか、とんと見当がつかぬ。なんでも、薄暗いじめじめしたところでニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここではじめて人間というものを見た。しかもあとで聞くと、それは書生という、人間中でいちばん癡悪な種族であったそうだ。この書生というのは、ときどきわれわれをつかまえて煮て食うという話である。しかしその当時はなんとという考えもなかったから、べつだん恐ろしいとも思わなかった。ただ彼ののひらにのせられてスーと持ちあげられたとき、なんだかフワフワした感じがあつたばかりである。

(中略)

吾輩の主人は、めつたに吾輩と顔を合わせることはない。職業は教師だそうだ。学校から帰ると終日書齋にはいつたぎり、ほとんど出てくることがない。うちのものは大変な勉強家だと思つている。当人も勉強家であるかのごとく見せている。しかし実際は、うちのものがいうような勉強家ではない。吾輩はときどき忍び足に彼の書齋をのぞいてみるが、彼はよく昼寝をしていることがある。ときどき、読みかけてある本の上によだれをたらしている。

(夏目漱石「吾輩は猫である」による。)

### 〔Aさんのノートの例〕

〈自分の考え〉

レビューには、「猫の視点から見た人間の姿を皮肉を交えながら、どこか滑稽に描いている」とありましたが、「しかし実際は、うちのものがいうような勉強家ではない。」や、「読みかけてある本の上によだれをたらしている」という叙述から、この場面では「吾輩」は「主人」のことを軽く見ていることが分かります。飼い主のことを尊敬していたら、こんなことは言わないはずです。この点は、全員で読んだ「吾輩」と「黒」のやりとりの場面での「黒」に対する接し方と似ている感じがしました。「吾輩」が現代にいたら、私たちのことをどう感じるのが気になります。

〈B〉さんからのコメント

『主人』のことを軽く見ている」とAさんは書いていますが、この場面には「吾輩はときどき忍び足に彼の書齋をのぞいてみる」という叙述もあり、「主人」のことが嫌いだったらそのようなことはしないので、愛着を感じていると受け止めることもできます。

〈C〉さんからのコメント

『黒』に対する接し方と似ている」とありますが、どのように「似ている」のかをもう少し具体的に書いた方がよいと思います。また、「吾輩」の生きていた時代とは異なる現代の中学生を、「吾輩」がどう評価するかについては、私も気になります。

7 学習を振り返る。



本授業アイデア例

## 活用のポイント!

- 学習の流れの5, 6については、ワープロソフトのコメント機能を活用して、互いに交流する活動も考えられる。
- 本授業アイデア例での学習を活用し、「吾輩は猫である」や他の文学的文章についてのレビューを各自で書くなどの学習活動も考えられる。

# 「四角で囲んだ4つの数の和の性質を見付けよう」

～説明を振り返り、統合的・発展的に考察する～

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察することが大切です。そこで、本授業アイデア例では、自然数を5つずつに区切った表で囲んだ4つの数の和について成り立つ事柄から、自然数を6つずつに区切った表で囲んだ4つの数の和についても成り立つ事柄を見だし、事柄を捉え直すことで統合的・発展的に考察することができるようにする指導事例を紹介します。

## 授業アイデア例

前の時間では、「自然数を5つずつに区切った表において、四角で囲んだ4つの数の和がいつでも4の倍数になること」を文字式を使って説明をしました。自然数を6つずつに区切った表に変えても、四角で囲んだ4つの数の和は4の倍数になりますか。

### 1. 6つずつに区切った表において、4つの数を囲むとき、4つの数の和がどんな数になるか調べる。



教師

今回は、自然数を6つずつに区切った表で考えてみましょう。6つずつに区切った表でも、四角で囲んだ4つの数の和は4の倍数になるといいですか。



1, 2, 7, 8を囲むと和は18で、4の倍数ではないね。

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

4の倍数ではないけれど、偶数になっているよ。



17, 18, 23, 24を囲むと和は82で、4の倍数ではないね。

偶数ということは2の倍数だよな。4つの数の和はいつでも2の倍数になるのかな。



6つずつに区切った表では、四角で囲んだ4つの数の和は4の倍数にならないことがわかりましたね。さらに、「四角で囲んだ4つの数の和はいつでも2の倍数になる」という予想を立てました。この予想が成り立つかどうか確かめましょう。

$n$  を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を  $n$  とすると、右上の数は  $n + 1$ 、左下の数は  $n + 6$ 、右下の数は  $n + 7$  と表される。これら4つの数の和は、

$$\begin{aligned} & n + (n + 1) + (n + 6) + (n + 7) \\ &= 4n + 14 \\ &= 2(2n + 7) \end{aligned}$$

$n$  は自然数で、 $2n + 7$  は自然数となり整数でもある。 $2n + 7$  は整数なので、 $2(2n + 7)$  は2の倍数である。したがって、6つずつに区切った表を用いて4つの数を囲むとき、4つの数の和は2の倍数になる。

$2 \times (\text{整数})$  の形になるように  $4n + 14$  を  $2(2n + 7)$  と変形したんだね。



$2n + 7$  は整数だよな。だから、 $2(2n + 7)$  は  $2 \times (\text{整数})$  の形になっているとみていいね。



2の倍数になることがいえたね。予想したことは成り立つことがわかりました。



### 2. 一旦解決された問題を振り返り、さらにわかることはないか考える。



四角で囲んだ4つの数の和  $2(2n + 7)$  から、2の倍数の他にわかることはありませんか。



$2n + 7$  の2倍かな。



6つずつに区切った表でみたときに  $2n + 7$  は何を表しているといえますか。

$$n + (n + 1) + (n + 6) + (n + 7) = 2(2n + 7)$$

1	2	17	18	$n$	$n + 1$
7	8	23	24	$n + 6$	$n + 7$

$$2 \times 9$$

$$2 \times 41$$

$$2(2n + 7)$$

# 課題の見られた問題の概要と結果

学習指導要領における領域・内容

## ⑥ 構想を立てて説明し、発展的に考察すること（4つの数の和）

⑥(3) 正答率 **30.9%**

四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する。

〔第2学年〕

A 数と式 (1)イ(イ)



9は1と8の和になっていて、41は17と24の和になっているね。



9は2と7の和、41は18と23の和にもなっているよ。



みんなの言っていることをまとめると、左上の数と右下の数の和になり、右上の数と左下の数の和にもなっているといえます。

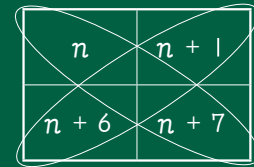


$2n+7$ でもそのようになっているのかな。



$2n+7$ は左上の数と右下の数の和になっています。また、右上の数と左下の数の和にもなっているといえます。

$$\begin{array}{l}
 2n+7 \\
 = n + (n+7) \\
 \text{左上 右下} \\
 \text{左上の数と右下の} \\
 \text{数の和になっている。}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{l}
 2n+7 \\
 = (n+1) + (n+6) \\
 \text{右上 左下} \\
 \text{右上の数と左下の} \\
 \text{数の和になっている。}
 \end{array}$$



$2n+7$ は、斜めに位置している数の和



$2n+7$ についてわかったことをまとめると、どのようなことがいえますか。



$2n+7$ は斜めに位置している2つの数の和になるといえます。



つまり、四角で囲んだ4つの数の和 $2(2n+7)$ は、斜めの数の和の2倍になるとみることもできますね。

## 3. 5つずつに区切った表の場合の説明を振り返り、統合的・発展的に考察する。



4つの数の和は、斜めの数の和の2倍であることがわかりましたね。このことは、5つずつに区切った表でもいえるでしょうか。



5つずつに区切った表の4つの数の和を $4n+12$ と表したよね。

$4n+12$ は $2(2n+6)$ と変形できるね。何かの2倍になっていることはわかるよ。



$2n+6$ は斜めに位置している2つの数の和とみることはできますか。



できます。左上の $n$ と右下の $n+6$ の和も、右上の $n+1$ と左下の $n+5$ の和も $2n+6$ になるからです。

5つずつに区切った表でも、4つの数の和は、斜めに位置している2つの数の和の2倍になることがいえます。



6つずつに区切った場合でも5つずつに区切った場合でも4つの数の和は斜めに位置している2つの数の和の2倍になります。

表の区切り方を変えても同じことがいえたんだね。



### 本授業アイデア例 活用のポイント!

- 一旦解決された問題を振り返り、さらにわかることはないかについて考え、得られた数学的な結果について事象に即して解釈することが大切である。
- 条件を変えて考察しそれを振り返ることで、共通の性質を見いだしたり、拡張して考えたりするなど、統合的・発展的に考察することが大切である。

# 「2分をはかる砂時計を作るために必要な砂の重さを予想しよう」

## ～2つの数量の関係を比例とみなして数学的に考察する～

実生活の場面において、ある問題を解決するために、事象を理想化したり単純化したりしてその特徴を的確に捉え、数学的に解釈することが大切です。そこで、本授業アイデア例では、2分をはかる砂時計を作るために、砂時計に入れる砂の重さと砂が落ちきるまでにかかる時間の関係を調べる場面から、これら2つの数量の関係を理想化したり単純化したりすることにより、比例とみなして数学的に考察することができるようにする指導事例を紹介합니다。

### 授業アイデア例

2分間スピーチのためにペットボトルで右のような砂時計を作ろうと思います。砂時計は、ペットボトルに砂を入れ、砂を通すための穴をあけた厚紙をペットボトルの間にはさんで作ります。



### 1. 2分をはかる砂時計を作るために、関係する2つの数量を見いだす。



砂が落ちきるまでの時間を2分にするためには、何を換えればよいでしょうか。



砂の量を変えればいいかな。

厚紙の穴の大きさを変えてもいいね。



実際に作るとしたら、厚紙の穴の大きさを変えるよりも砂の量を変えた方が作りやすそうだね。例えば、砂の重さと砂が落ちきるまでの時間の関係を調べれば、砂時計が作れるのではないかな。



砂の量を砂の重さで考えることにします。砂の重さと砂が落ちきるまでの時間はどのような関係になっていると予想しますか。



砂の重さが増えると、砂が落ちきるまでの時間も増えると思います。

比例の関係があるのではないかな。



砂の重さを2倍にすれば、砂が落ちきるまでにかかる時間も2倍になると思うよ。

砂が落ちきるまでの時間と砂の重さの関係について実験して調べてみようよ。



砂の重さを決めて、そのときの砂が落ちきるまでの時間について実験をして調べます。砂の重さを $x$ g、砂が落ちきるまでの時間を $y$ 秒として調べ、表にまとめましょう。

### 2. 2つの数量の関係を理想化したり単純化したりして考察する。



砂が落ちきるまでの時間は砂の重さに比例すると予想していました。まとめた表をみると、そのことはいえそうですか。



砂の重さ $x$ (g)	0	25	50	75	100
砂が落ちきるまでの時間 $y$ (秒)	0	11.9	24.2	36.0	48.3

$+25$   $+25$   $+25$   $+25$   
 $+11.9$   $+12.3$   $+11.8$   $+12.3$   
 およそ12ずつ増えている。

表をみると、 $x$ の値が2倍、3倍になると、 $y$ の値は2倍、3倍にはなっていないよ。



$x$ の値が25ずつ増えるごとに、 $y$ の値は、およそ12ずつ増えているね。



そうみれば、 $x$ の値が2倍、3倍になると、 $y$ の値も2倍、3倍になっているとみることができるよ。



# 課題の見られた問題の概要と結果

学習指導要領における領域・内容

## 7 日常的な事象の数学化と問題解決の方法 (砂時計)

### 7(2) 正答率 28.2%

与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。

[第1学年]

C 関数 (1)イ(ア), (イ)



表を縦にみると、時間と重さの関係はどうなっているのかな。

$y$ の値を $x$ の値で割ると、4つともだいたい0.48になっているよ。



砂の重さ $x$ (g)	0	25	50	75	100	
		$\times 0.476$	$\times 0.484$	$\times 0.480$	$\times 0.483$	
砂が落ちきるまでの時間 $y$ (秒)	0	11.9	24.2	36.0	48.3	

$11.9 \div 25 = 0.476$

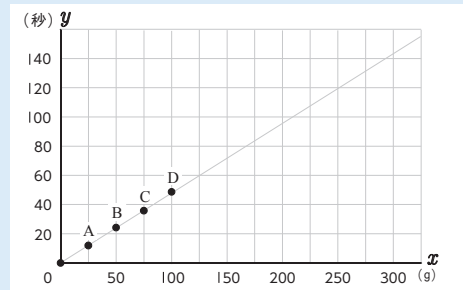
$24.2 \div 50 = 0.484$

$36.0 \div 75 = 0.480$

$48.3 \div 100 = 0.483$



グラフで考えてみたよ。表を基に点をとると、とった点は一直線上に並んではないね。



でも、とった点が一直線上にあるとみてもいいのではないかな。



そうだね。グラフは原点を通る直線とみることができそうだね。



話し合ったことから、砂が落ちきるまでの時間は砂の重さに比例しているとみてよさそうですか。



比例しているとみてよさそうです。理由は、 $y$ が12ずつ増えるとすれば、 $x$ の値が2倍、3倍になると、 $y$ の値も2倍、3倍になっているからです。

私も同じ考えです。 $y \div x$ の値がほぼ一定だからです。



グラフで考えると、原点を通る直線とみることができるので、比例しています。



みなさんの意見をふまえると、砂が落ちきるまでの時間は砂の重さに比例するとみなして2分をはかるために必要な砂の重さを考えていくことができそうです。

### 3. 2つの数量の関係を比例とみなして、問題解決をするための方法を話し合う。



それでは、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を話し合しましょう。



直線のグラフをかいて、 $y$ 座標が120のときの $x$ 座標を読めばいいかな。



$y = 0.48x$ の式に、 $y = 120$ を代入して $x$ の値を求めればいいかな。



本授業アイデア例

### 活用のポイント!

- 問題を解決するために必要なデータについて、実際に実験をするなどして収集し、その値を用いて考察する場面を設定することが大切である。
- 2つの数量の関係について考察する中で、それらの関係を理想化したり単純化したりすることにより、比例などの関数とみなすことによって解決できる問題があることを理解できるようにすることが大切である。

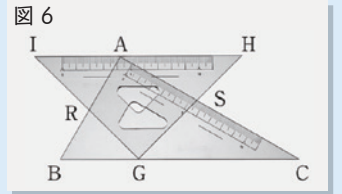
# 「三角定規を重ねると、どんな四角形ができるか考えよう」

～図形を動的に観察することを通して、見いだした事柄を数学的に表現する～

図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることや条件を保ったまま図形を動かしても成り立つ事柄を見いだすことが大切です。そこで、本授業アイデア例では、三角定規を変えて動かしたとき、重なったところにある四角形について、観察や操作、実験などの活動を通して、いつでも成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現できるようにする指導事例を紹介します。

## 授業アイデア例

前の時間には、 $30^\circ$ 、 $60^\circ$ 、 $90^\circ$ の同じ三角定規2つを重ねると長方形ができることがわかりました。本時は、一方の三角定規を $45^\circ$ 、 $45^\circ$ 、 $90^\circ$ の三角定規に変えて、2つの三角定規が重なったところにある四角形ARGSについて考えます。



### 1. 三角定規が重なったところにある四角形について、図形の性質を見いだす。



重なったところにある四角形ARGSは、どのような四角形ですか。

教師



四角形ARGSは長方形ではなさそうです。

台形や平行四辺形でもなさそうなので、特徴がない普通の四角形だね。



図のように、点Gが辺BC上にあり、辺HIが辺BCと平行になるように $\triangle GHI$ を左に動かします。このとき、四角形ARGSについて、どのようなことがいえそうか考えてみましょう。



$\triangle GHI$ を動かすと、四角形ARGSの形は変わります。やっぱり長方形にはなってないね。



辺の長さは変わります。



2つの三角定規は直角三角形だから、 $\angle RAS$ と $\angle SGR$ が $90^\circ$ であることは変わりません。



$\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさはわからないね。でも、 $\angle ARG$ の方が $\angle ASG$ より大きいよ。



三角定規を動かしても $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさは変わらないよ。



$\triangle GHI$ を動かしたとき、四角形ARGSの辺の長さは変わりますね。 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさについて調べてみましょう。



$\angle ARG$ は $90^\circ$ より大きくて、 $\angle ASG$ は $90^\circ$ より小さいです。

$\angle ARG$ の大きさを測ったら、 $105^\circ$ になったよ。

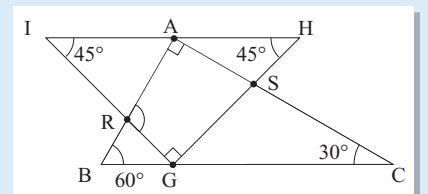
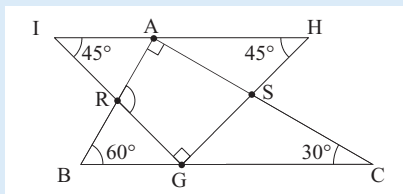
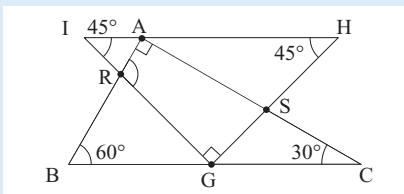


私がかいた図でも $105^\circ$ になったよ。

$\triangle GHI$ を動かしたとき $\angle ARG$ の大きさは変わらず一定になるのかな。



みんながかいた図



# 課題の見られた問題の概要と結果

学習指導要領における領域・内容

## ⑨ 平行線や角の性質を基に、図形を考察すること (三角定規)

⑨(3) 正答率 **29.3%**

∠ARGや∠ASGの大きさについていつでもいえることを書く。

(第2学年)

B 図形 (1)イ(ア)

## 2. 予想したことが成り立つことを数学的に説明する。



「△GHIを動かしたとき、∠ARGの大きさが一定である」と予想したことが成り立つことを説明してみましょう。



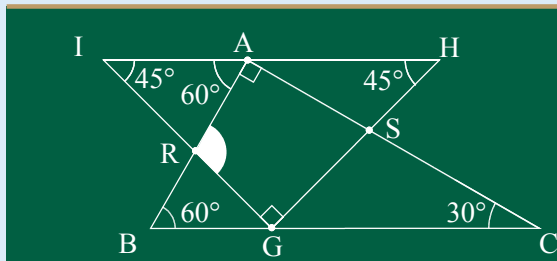
私は長方形になることの証明と同じようにして考えてみたよ。

平行線の錯角が等しいから、∠ABGと∠RAIは60°で等しいね。



△AIRで、∠ARGは外角とみることができね。だから、∠ARGは∠RAIと∠RIAの和になるね。

そうか。∠ARGの大きさは必ず105°になるね。だから、∠ARGの大きさは一定といえるね。



【証明】

IH // BCより、平行線の錯角が等しいので、  
 $\angle ABG = \angle RAI = 60^\circ$   
 $\angle ARG$ は△AIRの外角で、三角形の内角と外角の性質から、  
 $\angle ARG = \angle RAI + \angle RIA$   
 $= 60^\circ + 45^\circ$   
 $= 105^\circ$   
 よって、∠ARGの大きさは105°で一定である。



点Rを通るIHとの平行な線を引くと平行線の同位角から、105°を求めることもできるよ。



「△GHIを動かしたとき、四角形ARGSの∠ARGの大きさが一定であることを説明することができましたね。」

## 3. 四角形ARGSについての考察を振り返り、その特徴をまとめる。



重なったところでできる四角形ARGSは、どのような四角形でしょうか。考察を振り返って、四角形ARGSにいえる特徴をまとめましょう。



∠ASGの大きさは、75°で一定です。△GHIを動かしても四角形ARGSの4つの角は105°、75°、90°、90°で変わりません。



四角形ARGSの向かい合う角どうしの和はいつでも180°になります。



四角形ARGSは、最初は特徴がない普通の四角形だと考えていたけど、四角形ARGSの4つの角の大きさについていろいろな特徴があることがわかりました。



重なる三角形を三角定規以外に変えたら、どのような四角形ができるのかな。どのような特徴がある四角形か調べてみたいな。



本授業アイデア例

活用のポイント!

- 観察や操作、実験などの活動を通して成り立つと予想される事柄を見だし、これを論理的に考察する場面を設定することが大切である。
- ある条件の下でいつでも成り立つ図形の性質を見だして、それを数学的に表現する場面を設定することが大切である。

# 授業アイデア例



授業アイデア例は、どのようなときに活用できるのですか？



- 日々の授業や教材研究
- 各学校での研修会や研究授業
- 各教育委員会での研修会の資料

など、課題の解決に向けた様々な場面で活用することが考えられます。

この授業アイデア例が、先生方それぞれの授業づくりの広がりにつながっていくことを期待しています。



授業アイデア例は、小6や中3の担当が参考にするものですか？



全ての先生が活用できるものを目指して作成しています。

本調査は小5・中2までの内容を出題しており、本調査で見られた課題は、小6・中3だけではなく、学校全体、校種を通じた系統的・継続的な指導によって改善を図っていくことが大切です。

また、本授業アイデア例を他の教科等の授業づくりに活用することも考えられます。



授業アイデア例に示してあるTYPE S・Lとは何ですか？



本授業アイデア例では、調査結果から明らかになった課題の解決に向けた観点として次の2つのタイプを設けており、様々な方向から課題の解決に取り組めるようにしています。

学習過程の一部に焦点を当てて、学習指導の改善・充実を図りたいときは

TYPE  
S

数時間にわたる学習過程の中で、学習指導の改善・充実を図りたいときは

TYPE  
L



課題を把握して、授業の改善を図りたいのですが、授業アイデア例のほかにも参考になるものがありますか？



授業アイデア例は、解説資料・報告書と併せて活用すると効果的です。各授業アイデア例に「参照」として該当ページを示しています。



過去の授業アイデア例や解説資料・報告書はどこで見ることができますか？



国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

